

各地でデジタル化された『**解體新書**』から広がる散歩

堀江 幸司(東京女子医科大学中央写真室)

♪シソーラス研究会のホームページ「[医学用語を歩く](#)」のなかで「[江戸東京医史学散歩](#)」(「江戸東京」)を担当しています。第1回の「[緒方洪庵の墓](#)」を書いたのが平成14年4月29日のことですから、足掛け6年になります。デジタルでの情報発信の方が、誰にでも、手軽に読んでもらえて、原稿の追加、訂正も細やかに行え、即時性と記録性が高いと考えています。また、写真もデジタルで、追加挿入できるので、建物や風景の時代による変化なども、同じ頁のなかに記録することができるようになりました。

♪昨年(2019年)の第24回研究大会(長崎大会)には、あいにく、参加できなかったのですが、20数年前に長崎県 [大村市](#) に長興専齋の生誕地を訪ねたことを思い出しました。当時、わたしは、明治期に各地にできた医学文庫([日本医学図書館](#)、長興衛生文庫、長尾文庫など)の足跡を追っていました。

♪あらためて、インターネットで探索してみると、長崎大学附属図書館の「[長崎学デジタルアーカイブズ](#)」「[医学は長崎から](#)」、滋賀医科大学附属図書館の「[近江医学郷土史料電子文庫](#)」、京都大学電子図書館の「[貴重資料画像](#)」など、各地に、すばらしいデジタルアーカイブズがあることを知り、全国の医学図書館や博物館などでは、どのような史料をデジタル化しているのか。そのリンク集といったものは、あるのか。気になりはじめました。

♪調べていて、興味を持ったことのひとつに各地でデジタル化されている『**解體新書**』のことがあります。刷りや製本状態の違う『**解體新書**』を、コンピュータ上で比較することによって、直接、現物を閲覧しに行く必要もなくなりつつあります。慶應義塾図書館では、「[解体新書\(アナトミア\)](#)」として、濁逸原本、蘭訳本、仏訳本、ラテン語訳本、そして杉田玄白らによる邦訳本である『**解體新書**』を、すべてデジタル化して公開しています。また、早稲田大学では、[早稲田大学古典籍総合データベース](#)のなかで、『**解體新書**』『**重訂解體新書**』を、デジタル化しています。これらによって、各館所蔵の『**解體新書**』の比較、あるいは、濁逸原本と邦訳本との対比も可能になってきています。また、デジタル史料の画像の見せ方にも、各館に特徴があり、その比較も楽しいところです。

- (1) [東北大学附属図書館医学分館](#) (2) [内藤記念くすり博物館](#)
- (3) [東京薬科大学情報センター図書館](#) (4) [東京大学医学図書館デジタル史料室](#)
- (5) [慶應義塾図書館](#) (6) [早稲田大学古典籍総合データベース](#)
- (7) [京都大学電子図書館](#)

♪慶應に『**解體新書**』を寄贈したのが、杉田玄白の子孫の杉田つる博士で、吉岡彌生の女医会とも関係があることもわかりました。また、江戸・日本橋の書肆「須原屋市兵衛」や、図版の原画を描いた「小田野直武」(秋田藩角館出身)のことも少しずつ、わかり始めています。「江戸東京」の散歩が、杉田玄白(福井県 [小浜市](#))、須原屋、[角館](#)と広がりそうです。